

小児科医数、全国最下位 いのちを支える 地域医療が危ない!

厚生労働省が調査

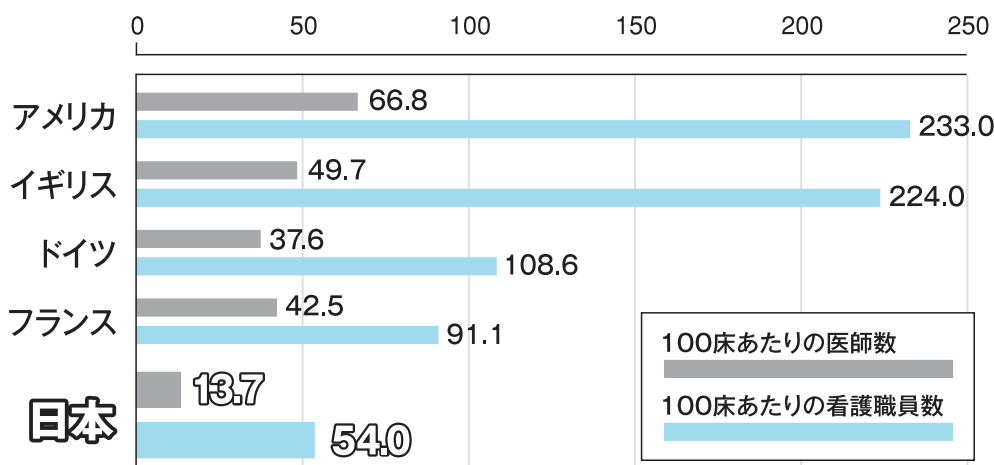
産科・産婦人科医
は34位

DANGER!



子どもの人口10万人当たりの小児科医、1位は徳島県の295.2人、最下位の岩手は118.4人
女性10万人当たりの産科・産婦人科医の1位は鳥取県の60.5人、34位の岩手県は36.2人

こんなに少ない日本の人員体制



出典:OECD*資料から厚生労働省作成の資料 ※OECD:世界の主要30ヶ国が加盟

住み慣れた
街で、
子どもが
産めない



安全でゆきとどいた 看護がしたい



一人の看護師が昼は10人、夜は20人もの患者さんをみています。目の回るような忙しさで、毎年1割以上が退職しています。

医師不足が異常事態を引き起こしています

県内で医師不足が深刻になっています。麻酔科の常勤医がないため緊急時の手術に十分対応できない、救急サブセンターがあるのに循環器(心臓疾患の治療)の医師がないため心筋梗塞の患者はすぐに転送される沿岸地域の病院。さらに県中央部でもお産ができない県立病院や、眼科、耳鼻科などの診療休止が相次いでいます。

大きな病気をした時は、盛岡の大きな病院にかかるのも仕方ありませんが、地域で診てもらえる病院、診療所がなくなると、そこで安心して生活できなくなります。ましてや、お産をするのに遠くの病院まで通わなければならないことは、異常事態です。

また、病院の看護師、医療スタッフの不足も深刻です。毎月45時間以上の超過勤務(残業)が続く病棟や、手術室の看護師などは、自分の健康や家族を犠牲にして働いています。こうした苛酷な労働は、医療事故の不安さえ抱かせます。

どこか、おかしい。その思いを、「オール岩手」でみんなで共有し、声を上げていきましょう。